

子供が自ら考え、発信する力を育てる教育が必要。

(4) コミュニケーション能力と人間関係の課題

語彙力や会話力を育てるプログラムを幼少期から導入すべき。

主体性と共感力を育てる教育が重要。

(5) 産学官連携と地域資源の活用

地元企業との連携により、子供たちに地域産業への理解を深めさせる。

製造業の現場や自然資源を教材化し、学びに活かす。

小中学生の段階から企業や地域との接点を持たせることが効果的。

(6) 国際的視野を育てる体験の提供

海外との交流(例:台湾との姉妹クラブ)を通じて、異文化理解と志を育む。

小学生のうちから海外体験をすることで、将来の選択肢が広がる。

自然な子供同士の交流が望ましく、形式的な歓迎式典は避けるべき。

3 ディスカッションの記録

アジア諸国との交流、大学レベルの交流だけでなく、小・中学生レベルの交流も行われるとよい。

産学官で

高校生もそうであるが、五感へ訴える仕組みがない。小中学校で体験できるものを一斉一律の授業では成り立たない

人で人材を確保することが悩みである。一番大切な人材をいかに確保していくかが課題

多くの人材確保をしていきたい

Astra! で一番大事なのは英語、語学ではないか。英語教育が大切。発展途上の国がみんな英語を話せる。文献も英語である。日本人は、和訳があるため日本語で書かれた本を読んでいる。

英語を使うと感性も変わってくる。国際交流はこれから大切。世界から優秀な人たちを呼び込んでくることのできればよい。

長野県は大きいと日々実感している。長野県で活躍する人を長野県で。楽しく今ある課題を解決できるとよい。特別支援学校の子供たちも、このようなプログラムに参加できるのではないか。特別支援学校の子供たちにあうプログラムになるかどうか分からないが。

生坂村の教育長をしていた。村の中に高校がないので、中学校卒業とともに村を出ていく。地域学をやりたい。カリキュラムの中に地域学を取り入れたらということで、小中学校のうちから地域にかかわってもらうプログラムを取り入れた。高校を出てしまうと県外へ出て、長野県へ戻ってこない子が多い。

県内と海外の視点を取り入れながら

【今の時代で必要な力】

社会の変化、多様性の社会の中で

一番大きなところは、発信する力。言葉にして何かを伝える力、英語も伝える機会がないので、マイナス要素か。講演会などでも、質問が出ないのが日本人。そこを変えていくような経験値と、そういった力を身に付ける。低学年は自由に話をするが。

学びのベースは、好きとか楽しい。自分がやりたいと思うもの。学びに対してまだまだ受け身である。楽しむ、楽しいことを追究できるように。そういったプログラムを。

英語だけではなく、長野県は地域性、戻ってくると引っ込み思案になってしまう。職場で、コミュニケーション能力が欠如している人が多い。ポキャブラリー不足。報告、連絡、相談さえも頭に浮かんでこない。何を言いたいのがわからない。子供時代から、会話力のプログラム。コミュニケーション能力。好奇心旺盛な子供時代なので。

コミュニケーション能力は、基本中のき。相手の気持ちがわかる力。思いやり。相手の気持ちに寄り添う。多くの人と一緒に仕事をしていく際に必要な力。リーダーシップ。俺がしっかりやるんだというような思い。主体性と共感力、今の学校では主体性を大事にしている。自分の考えをまとめ、発信していく力。共感力、コミュニケーション能力、相手の言っていることを受け止めていく。

海外との交流事業で、応募してくるのは女性が多い。誰にとっても参加しやすいように。

【地域資源、文化を生かした学び】

国際的な視野、自分の将来を考える学び

自然、教材がいっぱいある、山を見ていると安心する。どのように教材化するか。海外からくる方は自分の母国の産業などを話せる。長野県の人はどうか。どういった経験値を。「先生がこれを勉強しますね」、ではなく、教師が子供に刺激を与える。子供が興味、関心をもって学習をスタートできるように。

ポケットークを使っている。ネイティブな話かけでも翻訳してくれる。

ネパールからの人材も多いが、ポケットークが使える。

長野県のことを、自分の言葉でプレゼンできるような力

お祭りなどのことを発信する力を

長野県は、故郷なのか。地域とのかかわりがあればあるほど、故郷観を醸成してくれる。今は、その関係が希薄である。自分たちがここで暮らしているという実感があるかどうか。

子供が地域のつながりを持っているかどうか。家と学校との往復の生活になっている。

ただ実家があるだけ

どんな仕事に就いてもいいから、長野県に帰ってこいというようにして子育てをしてきた。

こんな商売は苦労が多かったから、やらせないではなく

とにかく信州に帰ってきてほしい、という思いで

子供が少ないので、小学校、中学校、高校と同じ人間関係。幼保から同じ者もいる。

長野県人は引込み思案という話があったが、せっかくなら答えのない楽しめる活動を選択できれば。

遊休農地やこの山一つを与えて、何をしますか。お祭りを世界にプロモーションするために、何をしますか。

成功体験をさせていきたい

たった15人が体験して変わるかどうかはわからないけれど、それを発信していく。地域展開を。

国際的な視点をとるのが難しい。

海外に行くというのは、国際的な視点を育てることにつながるかもしれないが。

ロータリーでは、留学生を受け入れている。高校生を受け入れている。海外の同世代と交流すると刺激がある。見ていると、行きたいとなる。

台湾との姉妹クラブ同士で、小中学生の交流をしたことがある

台湾との教育旅行の提携

ある程度のまとまりで、交流。弓道の袴を着させてあげる。弓を触る。

拒否感はないか。全校で歓迎式典などをやると堅苦しくなる。

子供同士の自然な交流を

小学校のころに海外へ行って、志を持ち続けることができるか

そういうことを大人が考えてくれているんだということを思ってもらえれば

本当にシンガポールなのか

長野県のことを語れることをやってほしい

感性が磨かれる。そういったことをやると長野県に帰ってきてくれるようなものを

「カムバック信州」

JICAで、小学校の時に友好都市との交流で、芽生えたという職員もいる。意外と種まきになる

長野県の将来に…というところが難しい

県立大でグローバルな学部があるが

【産学官でどんな連携ができるか】

企業訪問は、受け入れ可能である。当然にやっている世界でもあるので、それ以外に何ができるか。

企業はいろいろな形で新規人材の育成に力を入れている。高校生レベルでは、そういった研修をやってもらっている。そういったものを小、中学校でできないか。企業に興味があるときに、どういうことを学んだらその興味や面白さが倍増するのか。

地域の企業で製造している部品が、どういったところに使われているのかを知るような機会があればよい。

「よさの再発見」とあるが、よさだけでよいのか。いろいろなところを見てもらいたい。見学でいくような大きなところではなく。この木がこういったものになっていくんだというようなことを知る場があるとよい。

小中学校のときの思いって大事。いつか、信州に帰りたいたいと思えるように。